【86】

氏　名（国籍）	ミナクシ・バードワジ（イ　ン　ド）
学位の種類	博　　士（理　　学）
学位記番号	博　甲　第　3069　号
学位授与年月日	平成15年3月25日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
審査研究科	生物科学研究科
学位論文題目	Global Bioethics and Governance：Views from FAO and India on the Ethics of Biotechnology in Agriculture and Medicine （世界規模での生命倫理と政策執行：FAOとインドから見た農業と医療におけるバイオテクノロジー倫理）

主　査	筑波大学教授	農学博士	田　仲　可　昌
副　査	筑波大学教授	理学博士	齋　藤　建　彦
副　査	筑波大学助教授	Ｐｈ．Ｄ．	メイサー　ダリル
副　査	筑波大学教授	Ｐｈ．Ｄ．	渡　邉　和　男

論文の内容の要旨

全体的な目的は，バイオテクノロジーの全世界的な管理に，倫理がどのような役割を担っているかを分析することである。人類や環境へのサービスに，どのようにバイオテクノロジーの知識を用いているのだろうか。本研究では，バイオテクノロジーと倫理の管理に関連したケーススタディを行った。第一部は国際的な専門機関としてFAOが直面する倫理的問題に注目し，第二部では，発展途上国としてのインドに注目し，国内レベルでのバイオテクノロジー管理と，国際レベルでの問題を比較した。

FAOでの研究では，FAOの全ての役職・部課にわたって，103名のスタッフに，仕事の上で直面する倫理的問題や，世界的な食料と農業に責務を負うFAO全体としての倫理的問題について，インタビューを行った。100を超える倫理的問題がキーワードとして挙げられ，食料，地域開発，情報，バイオテクノロジー，スポンサーシップと資金援助，環境，動物問題，の7つのカテゴリーに分類できた。メモや録音テープに基づき，それぞれ100あまりのキーワードが「最高」，「中」，「低」，「なし」，と5段階で評価した。コンセプトカテゴリーの結果は次の通りである：食料：食料の確保は，組織の使命でもあることから42名が最重要課題として認識した（5段階で最高，高）。地域開発：開発政策が効果的であるためには，全てのレベルにおいて参加型のアプローチを取ることが重要であると捉えた人が30名いた。情報：FAOが中立のフォーラム，国際的な事務機関として偏りのない情報とアドバイスを提供する母体として重要であると捉えた人が35名いた。バイオテクノロジー：コンセプトとしてのバイオテクノロジーは緊急の問題ではないようだったが，22名がGM（遺伝子組換え）食品を重要な問題としてあげており，倫理分析は緊急を要する。スポンサーシップと資金援助：25名が多国籍企業や民間企業の影響に懸念を表した。環境：農家の人々の遺伝子資源への権利や土地の所有権はそれぞれ21名と15名が関心を示した。動物問題：11名が畜産が重要であると答え，5名が，非人道的な動物の殺害を重要な問題と答えた。

同様の方法で，インドでもインタビューを実施した。対象にした24名は主に政策作成者で，異なる倫理委員会の委員である。注目した問題には食料と農業，ヘルスケア，医学調査，などの分野が含まれている。食料と農業：FAOでの結果と直接比較するため，食料と農業に関わる問題は，FAOと同様に7つのカテゴリーに分類した。19名が貧困，18名が人口過多を，食糧不足の原因であり，発展の妨害であると捕らえた。性差別問題を解決するこ

とが，継続性と地域開発に最も重要であると答えた人が19名，そして，世界的発展のためには異文化を尊重することが重要であると答えた人が15名いた。消費者がより良い選択をできるように，技術の安全性に関する正しい情報を提供することが重要であると答えた人は21名いた。GM食品の表示や，組換え植物の環境への影響については，それぞれ12名と10名が関心を示した。富めるものと貧しいものの対立や，民間の役割については，それぞれ19名と18名が関心を示した。遺伝子資源の所有や，未来の子供たちのために環境を保全することが重要であると答えたのは12名であった。畜産や宗教問題は，3名しか関心を示さなかったことからも，あまり重要ではないようである。ヘルスケア問題：15名以上の人が，地方都市での一次・二次ヘルスケア，貧困や，資金不足，病院でのより良いインフラ整備，女性の健康などに焦点を当てた。医学研究問題：20名以上が経済問題を挙げており，特に資金援助やMNCの役割，国際特許が医学研究の課題であると述べた。

全体のまとめとして，以下の五つの考え方が引き出された。

（1）先端バイオテクノロジーは，社会における科学のもたらす倫理的議論を拡大させた。（2）バイオテクノロジーの政策執行には，多面的で多分野による協力が必要である。（3）バイオテクノロジーの国際的な政策執行には貧しい国々の参加も必要である。（4）倫理という用語を明示しなくとも，倫理原則を人々は用いている。（5）国家によるバイオテクノロジーの政策執行についてあげられた倫理課題は，国際的な政策執行で指摘された事項と対応する。

審査の結果の要旨

本研究はFAOとインドで実施されたインタビューの分析を詳細に報告している。生命倫理と政策執行のテーマはとても斬新で，バイオテクノロジーにまつわる政策と生命倫理の研究視野を広げるという研究分野で高く評価できる内容である。本研究の分析結果は政策作成者にとって有益な情報であり，研究仮定も論理的に考察され，まとめられている。国際機関としてのFAOと，発展途上国としてのインド，という選択も，調査対象として有益な例である。本研究の手法・解析方法を基盤にして，さらに日本など，他の国々や国際機関について研究し，比較解析することも可能である。

よって，著者は博士（理学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。